

第4回今後の幼児教育・保育における市立幼稚園のあり方に関する検討会 議事要旨

- 1 日 時 令和5年2月2日(木) 13時00分～14時30分
- 2 場 所 神戸市産業振興センター802・803会議室
- 3 出席者 日浦直美会長、小野セレスタ摩耶委員、齋藤優子委員、田辺理恵委員、
谷村誠委員、中後和子委員、春木康輔委員、人羅亜矢子委員、
渡邊隆信委員

※小野委員、渡邊委員はリモート参加

- 4 議 題 本検討会意見のとりまとめについて

5 議事要旨

今後の幼児教育・保育における市立幼稚園のあり方に関する検討会意見とりまとめについて意見をいただいた。

(主な委員意見)

1 現状等及び検討の視点

- ・意見なし

2 今後の幼児教育・保育における市立幼稚園のあり方

(1) 再編・統合による集団保育の確保、少子化への対応

- ・意見なし

(2) 公立としての機能・役割 ①拠点としての機能

- ・この項目の2つ目の○について、「教育・保育の質向上に寄与する取り組み」に関連して、教職員の研修の充実や質の向上・確保といったものが抜けていると思うので、教員の質の向上といったところを追加していただければと思う。
- ・3つ目の○について、「市立幼稚園を拠点とした相談・支援や巡回助言など」というのが先生に向けての相談・支援なのか、あるいは保護者に向けてなのかが少し分かりづらい。誰に対してかが分かりやすい方がよい。
- ・3つ目の○について、一段落目は「通園する園児への支援の充実を進めていく『必要がある』」だが、その次は「併せて、幼児を対象とした通級指導の今後についても『検討すべき』である」と弱くなる。公立幼稚園にはまだ先生もたくさんおり、力があるうちにどうして神戸市内の幼児の特別支援の通級を担っていただけないのか。公立幼稚園には3割いるというデータがあったが、私学にはもっといいたい。その子どもたちが統合教育を受けられることはもちろんだが、その子に特化した特別な支援がどこで受けられるのか。ずっと言い続けてきたが弱い文言になっているのが気になる。

- ・ 3つ目の○で「障害の有無に関わらず」、4つ目の○で「養育環境上の課題を抱える幼児や」とあり、記載を分けているところが気になる。また、「幼保小接続に取り組むことが重要である」について、上の○にも同じようなことを異なる言葉で書いてあるようで分かりにくい。
- ・ 一般の方は「特別な支援が必要な子ども」という言い方が、イコール障害を持っている子どもとは捉えない可能性もある。特別に配慮が必要なのは、例えば外国籍や不適切な関わりを受けそうな家庭環境、ひとり親家庭の子どもなどいろいろ含まれているということが分かりにくい。もう少し分かりやすい方がよい。
- ・ 6つ目の○について、「一概に拠点としての役割として捉えるものではない」という文章が分かりづらい。例えば「一方で」を消し「子育て支援事業は市内の公私立の教育・保育施設や、児童館でも取り組まれており、同様に公立幼稚園も役割の一つとして取り組んでいく」くらいのもう少し前向きに役割を続ける文言でどうか。
- ・ 一概に拠点としての役割を市立幼稚園存続の理由とすべきではない、みたいな主旨かと思ったので、もう少し柔らかい表現だと分かりやすい。

(2) 公立としての機能・役割 ②教育機会の保障面の役割

- ・ 意見なし

(3) 長期的な観点からの市立幼稚園のあり方

- ・ 「長期的観点からの」という表現が気になる。私立幼稚園と私立保育園はこども家庭局が所管しており、そうでない市町村が多くある中で、非常に円滑に物事が進み上手くいっている。公立幼稚園だけが教育委員会という枠組みの中にある状況に違和感がある。障害者、障害児の話もずっと申し上げてきた中で、円滑にやっていくためには、早くこども家庭局のほうに公立幼稚園も入ったほうがいいのではないかと。長期というのは大体10年を指すため、長期的ではなく速やかに検討していただきたい。
- ・ 10ページの大見出しの2が「今後の」幼児教育である。委員が言われるように「長期的」とするとそこだけぼんと浮いてくるような気がするため「今後」でもよい。
- ・ 1つ目の○について、公立の保育所に1号枠を設けて認定こども園にする、そこに公立志向の保育園の子、幼稚園の子が集うのではないかとということだと思うが、神戸市として人数に関しては厳しく規制している。例えば、私立幼稚園が今度2号や3号の子どもを収容できるような認定こども園になりたいといっても、待機児童もゼロの状況で10人までにしてくださいと言われる。6学年では、1学年2人も入れられない。だから認定こども園にする意味はあるのかなということなので、認定こども園化をされない園もたくさんある。2号・3号の保護者は、区役所に申込みに行って、第1～5希望まで書くが、第1希望にはなかなか入れないため、第2、第3希望に預けてその園に溶け込んでいかれる。それなのに公立幼稚園だけ少人数でも存続してほしいという

のはちょっとわがままではないですか、と前回の検討会で意見もあった。地域の差があると思うので、「行政区ごとの状況」や「少子化の状況などを踏まえた上で」、「地域の実状を見て」というような文言も入れていただけたらと思う。1号の待機児童はおらずむしろマイナスである。私学も減っている。地域によっては受け皿を確保する必要はないと思うので、逆にこれはやめていただきたいぐらいに思っている。

- ・ 2つ目の○（一元的な所管）について、「速やかに」と思っているため、「速やかに」という言葉をどこかに入れるような順位づけをしていただきたい。事務局として（1）（再編・統合による集団保育の確保、少子化への対応）、（2）（公立としての機能・役割）は直近でやらなくてはいけないことと考えているならば、（3）（長期的な観点からの市立幼稚園のあり方）ではなく、すぐ検討するほうに入れていただきたい。項目の表現を変えてもいいのではないかとも思う。
- ・ 例えば○の1つ目（市立保育所との一体での対応）は上に上げ（2）の②に入れるか、または今後の公立の1号枠という意味で③の項目を作る。そして○の2つ目（一元的な所管）を「推進体制について」や「本市の幼児教育・保育の体制について」のようなタイトルにして、（3）は○1つという形とするのはどうか。
- ・ ○の1つ目（市立保育所との一体での対応）をするためには、○の2つ目（一元的な所管）を先やらなければ実現しない問題である。教育委員会が当該園だけこども家庭局に移管する形で、今の公立保育所のほうが認定こども園化するというのであれば、今のこども家庭局でもできるが、一体的に全部やろうということになると違うかなと思うので、2つの○を分断して1つ目の○（市立保育所との一体での対応）を上にあげるとは難しい。
- ・ 上にあげたらすぐやらないといけないみたいになるのであれば、それは避けたほうがよいと思うが、何らかの前文をつけて取りまとめてもいいのかなと思う。例えば「中長期的な視点としては、集団保育を維持するため」等として上にあげれば、すぐにはやらなくてもいいのかなと。上にあげ、体制については外出しという形もある。
- ・ （3）の内容は基本的に市立幼稚園がどうあるべきか、どうしていくべきかを書いてあるので、「市立幼稚園の今後の変革について」というような形にすれば、2つをまとめた題名になるかなと思う。
- ・ このたびの検討会が市立幼稚園を認定こども園化するという議論の出発点になったということで前進したものと思っている。市立保育園と一体での対応が必要だということの理由が、「地域によっては」という観点だけが書かれているが、もっとこの認定こども園化について検討するための理由があったのではないのかと思う。例えば、保育ニーズや認定こども園の増加という、市民のニーズがそもそも1号よりも2号や1号+2号のようなものが求められているというのは例としてあるので、「保育ニーズも考慮しながら」など他の観点もあってよい。
- ・ 子ども・子育て会議ではこれ以上の保育ニーズはないとされている。こども家庭局もこ

れから公立の保育所を閉じていくということを表明している。それなのに、保育ニーズがあるから公立保育所と公立幼稚園を一体化して連携するということは、一体神戸市はどちらを向いているのかという議論になる。

- ・ 1号のニーズがまだあるから市立でも数少なくとも残すべきだということではなく、いわゆる認定こども園のほうが単独の保育園や幼稚園よりもニーズが高まっているという意味である。
- ・ 2号も今は余っておりニーズがない。保育園も認定こども園も、2号であつてもいっぱい空いてきている。2年ぐらい前だったら違っていたと思うが。
- ・ 両者のご意見を受けると「少子化の状況を踏まえて」ということかと思う。
- ・ PTAが行った保護者アンケートの結果について、1月30日に自由意見をまとめたものを教育委員会に提出した。保護者の意見に全て目を通したが、市立幼稚園は私立幼稚園や保育所と比べ、預かり保育や給食、送迎などのサービスのギャップが大き過ぎると感じた。市立幼稚園として、幼児教育を受ける取りこぼしがないようにセーフティネットとして存続は必要であるが、そのようなサービスのギャップがあるからこそ市立幼稚園が選ばれないところもあると思う。そのため、今回のとりまとめの中に、市立幼稚園がほかの私立の幼・保・認定こども園とのサービスのギャップをなくしていかなければならないというところは、一言入れていかないといけないと思う。そうした上で、さらに市民のニーズを追いかけていかなければならないのではないか。私立では受けることができるようなサービスが市立幼稚園でやってもらえないといったことが結構多く、改善を要望するが全然改善されない。ここはどうしても直さなければならぬのではないかと思う。
- ・ 今は1号・2号の保育料は無償化になっており、公立でも私立でも無償で親の希望でどこでも選べる。公立幼稚園では税金を使っているが、私学は経営努力でやっている。預かり保育では収益はあがってこない。園児を来てもらうために工夫してやっている。それを公立に求めるのはまず無理だと思う。職員体制もある。それを分かっているのに、あれもこれもというのはわがままだと思う。無償化になっているから教育の機会も均等になっている。預かり保育を利用したい方は2号になったらもっと長時間無償である。8時間無償のほうがパートにもいけるし、子どもも預かってもらえるから楽だというようなことで、どんどん2号に流れている。公立幼稚園の保護者の方は、お弁当がある園がよい、バスがないところで親子で手をつないで行けるのがよい等といったところで公立を選んだわけなので、あれがないこれがないと言われるのは違うのではないか。どれだけ税金をかけて公立幼稚園を維持させているかとずっと言ってきた。本来ならもっと最初に「公立やめましょう」と言いたいぐらいだ。税金の無駄遣いとまでは言わないが、税金をたくさん使って不平等になっている。私学に行っている人でも受けられないサービスもある。公立幼稚園でもっとサービスをしてくれと言っても、皆さんもいかなものかと思われるのではないか。

- ・私立を選べる中で公立を選んだのだから、という意見もあるかと思うが、一方で、私立幼稚園に入ろうとしたけども問題があって受け入れられなかったお子さんがいたと。そういったときに、近所の公立幼稚園に通おうとしたら、2年保育しかやってないので1年間自宅で待機せざるを得なかったといった悲しい声がある中で、そのような不平等な教育機会があるとか、給食や預かり保育が無いといったところのサービスは改善していかなければいけないかと思う。
- ・公立幼稚園に教育委員会が莫大なお金を投じているから、私立幼稚園では特別支援を見る加配の先生たちなんて置けない。置いても1人、2人だが、その先生たちの1年間にもらう費用が30何万。それでも幼稚園が自腹を切って特別支援の子につけている。だから園としては、例えば3人、4人抱えているから、もう1人とと言われても無理です、申し訳ありませんという断り方ではなかったかと思う。私学も断りたいわけでは絶対なく、それなりの理由がある。特別支援を受けるために私立も頑張っているのだから、特別支援の補助金を上げてほしいし、その子たちが通える通級もしてほしいと思う。全国に公立幼稚園がない市はたくさんあり増えている。横浜が筆頭だがそこで困っているかというとなんか困っていない。公立を全廃しましょうとは言わないが、やはり少人数の方の意見で神戸全体の子どもたちに使われる税金がそちらへ偏るといのはいかがなものかというのは、ずっと申し上げている。
- ・少子化の中で1人の状況にできるだけ浴うような園を選んでアドバイスするということも、子育て支援の市の姿勢としては出していけるということになるのではないかと思うので、本検討会のとりまとめ意見の中に公立の幼稚園を充実させていくという文言は載せないほうがよいと思う。むしろ、公立、私立、幼保問わず、保護者や子どもの状況に合わせた保育をできるだけ市を挙げて取り組めるようになるということをここに盛り込まれていると思うので、あえてその文言を追加する必要はないのではないかと感じた。
- ・市民の皆様方もとても関心があることだと思う。公立幼稚園の保護者の方も大変心配している問題だと思う。本あり方検討会がとりまとめた意見を踏まえて、これから教育委員会が市立幼稚園をどうしていくのかを考えるとと思うが、今後1年後や2年後に検証や状況を報告する続きの検討会等をする予定はあるか。
- ・継続してというのは、やっていくべきではないか。どれぐらいのスパンかというのは別だが、前回よく議論したことにもう一度エネルギーをかけてというようなことにならないようにと思う。このような議論もこども家庭局のほうに移れば、もう少しスリムに効率よくできるのではないかというのはいし添えたい。
- ・とりまとめについては各委員もう一度見ていただくが、そのプロセスにおいて事務局との文言の整理を私（会長）にご一任いただければと思うがよろしいか。（異議なし）